

第3回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会 会議録概要

議題	1 大ホール、小ホールの改修の方向性について 2 市民の文化・芸術活動の創造・発表・鑑賞の中心の場となる施設改修の方向性について 3 各諸室の改修について 4 その他
日時	平成21年10月9日(木)14時から16時まで
会議開催場所	茅ヶ崎市役所本庁舎7階第3会議室
出席者氏名	白井 精治、片岡 俊彦、和田 千代子、望月 直人、川口 寛、岩本 一夫、松永 耕作、遠藤 まさみ、大高東皓(代理出席)、塚原 康男、丸山透、杉山 貴子、山内 隆徳 事務局16名(文化推進課3名、建築課5名、エイアンドティ建築研究所4名、空間創造研究所 1名、永田音響設計1名、学識経験者2名)
会議の公開・非公開	公開
傍聴数	0名
非公開の理由	—

(事務局)

皆様こんにちは。定時になりましたので、ただいまから第 3 回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。

まず、会議に先立ちまして本日の委員さんですが、望月委員と澤委員が遅れているようございます。吹谷委員につきましては欠席ということで、代理で大高東皓様にお越しいただいております。ご報告申し上げます。本会は、協議会設置要綱の第 5 条 2 項によりまして、委員の過半数の出席が求められますので、成立をしているということで開催させていただきます。それでは、会長の方をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(杉山会長)

皆様こんにちは。本日もお忙しい中、ご出席いただきましてどうもありがとうございます。早速ですが、第三回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。本日も活発なご意見を是非よろしく申し上げます。また、皆様お忙しい中、おいでいただいておりますので、スムーズな進行にご協力いただけますと幸いです。よろしく申し上げます。

本日は、傍聴の方はいらっしゃらないということでもよろしいでしょうか。早速ですが議題に入ります。議題 1、大ホール・小ホールの改修の方向性について議題にいたします。事務局より、説明をお願いします。A&T さんよろしくお願いします。

(A&T 建築研究所)

こんにちは。今日で 3 回目になります。よろしくお願いします。

(A&T 建築研究所説明 (プロジェクター使用))

お手元にありますのは、協議会のスケジュールです。10 月 9 日、第 3 回目となります。前回、「大ホール・小ホールの改修の方向性について」ということでご説明させていただきました。今回は、市民の文化と芸術活動の創造発表、鑑賞の中心となる施設改修の方向性についてということでご説明いたします。

前回説明させていただいた中で、大ホール・小ホールの客席についての検討が、まだ詳細に至ってなくて、方向性だけを、ご説明させていただきました。それで今回はある程度、このような方向でということの内容が確認できましたので、ご説明させていただきます。まず、ホールの客席でございます。現在、茅ヶ崎市のホールの椅子は、横方向手摺から手摺までの中心の幅が 49 c m。前後方向が 93 c m。これは、前回説明させていただきました。スクリーンの方によく知られているホールの椅子と幅と、前後間隔を示してございます。これを見ていただくと、前回もご説明しましたように、1997 年から 10 年前くらいまで、ホールについては、49 c m とか 50 c m とかそのくらい幅の椅子が多かった。前後間隔は、91

c mのところもありますが、90 c mとかそういうのが多かった傾向がございます。それ以降近年になって出てくるホールにつきましては、横幅が 50 c mから 52 c m。もう少し広い所もございますけど、近似値で収まっています。それから前後につきましては、95 c mというのがある。このような傾向の中で、今回既存のホールの器が決まってということもございまして、検討いたしましたのは、横幅につきましては、51 から 52 c mという方向で考えています。ですから、従来に比べると 3 c m横幅を増やしている。それから、前後方向につきましてはコンクリートの段床がございまして、ずらしていくのは難しいというような中で、93 c mという前後方向の幅は変えないで検討してございます。ただし、前後方向につきましてはこの椅子の背もたれの厚みを調整するようにいたします。それから、小ホールについては、特に現在こういう風（スクリーン上）にかなり寝ております。それを少し立てることによって、ここでは 93 c mと書いてありますけど、94 c mなり 95 c mに近い有効の寸法を取れるような格好になっております。

これが前回の大ホールの 1 階席、そしてこれが 2 階バルコニー席です。現在は 1 階に 1050、2 階に 350。計 1400 席。これで検討させていただきました結果、元々 1060 だったのが 1 階が 1001 席、2 階が 350 だったのが 334 席ということでトータル 1335 席になりまして 65 席のマイナスとなります。それで、できるだけ 1400 席確保というような中で、再度検討いたしましたのは、現在、下手と上手の客席のところに花道があります。これは、本花道で常設になっております。この花道を常設ではなく仮設にしたい。使うときには、組み立てて使う。それから、緞帳の前の舞台鼻につきましては、緞帳を下ろした時でも人が一人立て、挨拶できる 80 c mから 90 c mを確保することで、その分客席を広げるというようなことで検討いたしました。この結果、1 階席が 1054 席。先程から 53 席増えています。2 階が 334 から 350。結果でトータル 1404 席。目標の既存の 1400 席確保ということは一応、可能であるということであるという結論でした。1 階の平土間部分につきましては、皆様からご要望がありましたように、見やすくするよう椅子の配置は千鳥にいたします。前の方の頭と頭の間、後ろの方の頭がくるという千鳥にして、視覚的に遮らないような配置をします。レイアウトにつきましては、このように花道を仮設にする。舞台の鼻を多少削って列を増やす。ということで、1400 席確保できましたので報告させていただきました。このような方向で検討させていただきます。

続きまして、小ホールでございます。小ホールにつきましても、現在横幅 49 c mというのは同じ。前後方向、93 c mというのも同じでございます。現在 406 席でございます。客席幅を 52 c mに変えますと、客席数は、406 席だったのが 379 席、21 席減ってしまいます。それで、小ホールにつきましても本設の花道、これを仮設置とさせていただきます。それから舞台鼻についても下げる。

379 席で 21 席マイナスだったのですが、それを対応することにより 384 席となります。

結果として、400 席から 16 席減ってしまいます。こちらと同じく、1 階の平土間の部分の椅子につきましては、千鳥に配置するというところでございます。客席については以上でござ

ざいます。

(杉山会長)

確認なんですけれど、小ホールの方の最終的な座席数は手元の資料の方で 422 席ですが、これでよろしいでしょうか。

(A&T 建築研究所)

申し訳ございません。シートが違ってしまして、絵はあっているんですが下の数字が間違っております。訂正させてください。

(杉山会長)

皆様に直していただくということで、384 席がご提案のお席ということでよろしいですか。委員の皆様、すいませんが直しをお願いします。

では、前回からの継続になりますが客席の方、時間も限られているということで、今、A & Tさんから幅を広くして、なるべく客席を減らさない、ということでいろいろ工夫をしてくださったんですが、ご意見いかがでしょうか。

(片岡委員)

今、話を伺いますと、座席の幅が広がるということから、レイアウトが変わったということなんですが、長さが変わらないと。実は、現在の状況で、例えば座席に順番に座っていくなら別なんですけど、途中で奥が空いてしまってそこに座るときは、座席に座っている人のところに行く訳ですよ。その場合、小さい荷物などある場合、相当困難だと思われませんが、そういう部分につきましては、他の事例で椅子の下に荷物を置くとかがありますが、そういう配慮を何か考えているのでしょうか。

(A&T 建築研究所)

現在、客席前後寸法が 93 c m という中で、他のホールでは 95 c m とか、そういう寸法になっている。なるべく 95 c m、それ以上とれるように検討しようと、まず椅子の背もたれの厚みですが、いい素材もございまして、座り心地を損なうこともなく薄くできるのではないかと。ここが薄くできれば、その厚み分だけ通路の幅が増えるというのが一つ。もう一つは、椅子の背もたれの角度でございまして、特に小ホールにつきましては、固定の背もたれが寝ております。通常のホールくらいの角度に立てると 93cm というのが 95cm とかそういう寸法に増えていくのではないかと検討しています。

もう一つ、椅子の下に物を置くということがありましたが、今現在の空調システムですけれども、天井から吹いて、客席の下でマッシュルームといたしまして、キノコみたいなもので、空気を吸っております。これによって、風の流れが上から下へスムーズに流れるよう

になっています。それが現在ありますので、客席下部に荷物置き等の固定物を設けるとい
うのは困難と考えます。

(片岡委員)

大ホール、小ホールは同じ？

(A&T 建築研究所)

まったく既存は一緒です。ただ、実施設計の段階では、デザインを変える可能性はありま
す。その辺で多少差違はでてくる可能性はあるかもしれませんが。今の検討段階では同じ 52
c m幅前後の椅子でやらせていただきます。

(杉山会長)

よろしいでしょうか？

(白井委員)

大ホールについてお聞きしたいのですが、1404 席に対してですね、車椅子の席が 8 席とい
うのはちょっと少ない気がしているんですが。この図面を見ますと 14 席使ってるんですね。
もう少し、車椅子の座席の入る配慮を考えていただけませんか？

(A&T 建築研究所)

可動席にする椅子が、増えてくるという問題がありますけれど、増やすことは技術的には
不可能ではありません。茅ヶ崎市さんを含めて今後検討させていただきます。

(白井委員)

あの、一般席を 1400 席確保しなくてはいけないのか、1404 席をどうしても確保しなくて
はいけないのかな。というのはどうですか？

(岩本委員)

白井委員のご意見にちょっと関連するんですけど、1400 なくてはいけないのかという点
なんですけど、これは A&T さんじゃなくて市の事務局の方に伺ったほうがいいでしょうか。
どの時点で、どういう形でキャパを減らさないという風に決定されたのか、その辺の説明
を受けていないのですが。

(遠藤委員)

前回資料を求めていたんですが。

(杉山会長)

今日、調べてきたんですが、一応、私どもの自主事業に関連して過去に3年間、満席なものがどのくらいあったのかとか、ジャンルはどんなものがあったのかを調べてまいりました。

(事務局)

まず、私の方から1400の客席の確保、現状を維持したいという考え方を説明させていただきます。

文化会館の事業につきましては、鑑賞事業というものが中心で、多く大ホールを使っております。その中で、やはり興行的なものを考えますと、どうしても人数は多ければ多いほうがいい。というような中で、これを減らしていくと、例えば呼びたいような興行のものも、呼べなくなってしまうという反面もございます。今、1400の客席の中で来ていただいているもので、非常に皆さんから要望があるような催し物等につきましても、客席が減ることによって興行が成り立たないというようなものもある場合もありますので、そういったものを解消するためには、現状の客席数は出来るだけ確保したいということがございまして、財団の方とも協議してこの客席数は出来るだけ確保したい。という形の中でプロポーザルを行ったわけでございます。

(岩本委員)

財団の方で調べられた資料の方も伺いたいんですが、プリントか何かございますか。

(杉山会長)

今日は、お配りはしない予定になっていたのですが、口頭で説明させていただきます。

(杉山会長)

文化会館の自主事業ということで、平成18年から20年のものを大ホール・小ホールで分けてデータをとってみました。私共の大きい柱であります、財団の事業といたしましては鑑賞事業というものと創造育成事業というものを行なっているんですが、鑑賞事業というものは様々な多岐にわたる文化、芸術をなるべく安い価格で市民の方に地元で見ていただく事業と位置づけております。創造育成事業というものは、市民の方が自らの力で新しい文化を作っていくたり、文化に親しむきっかけを作ったりとか、そういう文化創造の事業ですね。それは1年、2年で結果がでるものではございませんので、長年の積み重ねで市民ひとりひとりに力が付いていって、10年先に花が咲くような創造育成を行なっております。財団の方も、昨今厳しい状況があることと、これからの時代、市民の方ひとりひとりが文化に親しみ自らの力で親しんでいっていただきたい、ということで創造育成型の事業に力

をいれるようになりました。鑑賞型の事業では、先程 1400 という数字がいろいろ話題になっていると思うんですが、皆さんの見たいもので 1400 のホールで採算を取れるもので、黒字になるものは少ない。出来ないような状態なんですね。大野先生の県民ホールでも 2000 以上ですし、相模大野さんでも黒字がでるかどうかなというふうなものなので、茅ヶ崎市の方も資金が少ないので、鑑賞型の方のものは、なるべく共催という形で主催、完全主催というものは出来ないのです。共催で良いものをイベント屋さんが一緒にやりましょう、とおっしゃってくださったものを、積極的に最近取り入れるようにしています。その結果ですね、小椋桂さんですとか、落語の歌麿さんや楽太郎さんですとか宝塚歌劇を、観たいという市民の方から要望が多いものを共催で受けさせていただいております。やはり、こういうものを積極的に受けさせていただいているということで、本当に満席ですね。これは 20 年度でいいますと、満席の催しは全体の 30% くらいが満席の催しとなっております。やはり、9 割くらい入っているものは全体の 10% を締めております。あとは、市民の参加が多いライブ演奏会。この辺も 8 割くらいお客様が入っております。残念ながらその反対として、クラシックの人口は、1% といわれていますが、クラシックの催しというのは 6 割 7 割ぐらい、よくいっても 7 割ですね。5 割 6 割でとどまっているものが多いんですけど、ただ満席のものばかりをやっていればいいのかという話もあります。本当に素晴らしいクラシックを楽友協会さんが招いてやってくださっているのです、本当にクラシックは、茅ヶ崎は音がいい中で聴けるのでお客様に喜んでいただいております。ですので、5 割ぐらいの催しが 20%、6 割の催しが 25%、7 割の催しが 10% といった形で比較的近年は、文化会館はホールが満席になるものが多めになっております。やはり 19 年度も、落語関係、宝塚、子供向けのしまじろう公演ですとか、オペラ関係ですね、こういったものが 8 割以上の入場者の方をいただいております。18 年度もやはり、招待の公演、NHK 主催のものですとか、オーケストラ（第九）やオペラですかね。この辺が 8 割 9 割、満席の公演になっております。財団が、自主事業で皆様に優れたもの地元で安くご覧いただけるためには、良い共催を受け入れさせていただくためには、沢山のお席があるといいということで、出来ればなるべく減らさないように、本当に余裕をもった、ゆったりした中でご覧いただくのがもちろんなんですが、極力減らさないでいただくとありがたいかなと思っています。

（岩本委員）

減らさないですめば、そのほうがいいでしょうけど。我々、文化団体協議会っていうのが茅ヶ崎の市民の文化活動、芸術活動の人たちが集まっているんですね。今、こういうご時勢で、高いチケットをとるということは、ごく特殊な方しか見られなくなっている。横浜にも東京にもちゃんとした事情は沢山あります。これは日本だからこうやって半径 20 キロ以内に会館やホールがあるんでしょうが、アメリカ、ヨーロッパに行ったら、こんなにたくさんの会館があるところはないわけで、酷い所は自家用車で行かないと会館に行けないわけですね。もっと地域ごとに、それぞれ特性をもった事情があるといったのがヨ-

ロoppa型ですね。日本は、何でもかんでも出来るものを各市が持っているというのは、特殊なんじゃないかと思うんですよね。これから、この会館を改修して40年50年使うという考え方ですから、40年50年の間にどういうニーズになっていくのかを今、きちんと再確認して、この会館のコンセプトを見直すチャンスでもあるのではないかと思うんですよね。極端に言えば1400のキャパはいらないんですよ。1000もあれば沢山だし、小ホールも250から280くらいあれば十分なんです。そういう考え方としての建物の使い方もあるんですよ。どういう機能にするかということ、今までと同じ機能を保ちたいんだと、同じようなことをやっていくんだとあれば、1400にこだわることになるんでしょうが、例えば、その市民の文化活動、芸術活動に視線を向けたり、或いは、神奈川県地域の活動に目を向けたり、そうしていくと果たしてこういう建物が必要なのかということになってきます。全く違った、コンセプトで建物作りをしていたり、運営しているところは、日本中にたくさんあるんですね。

この際、こういうところを検証されて、いったん白紙に戻して、茅ヶ崎における文化会館とはどういう機能でどうあるべきなのか。かなり結構高い税金使うわけですから、しかも我々のあとの人たちにツケをまわすわけですからね。我々がなくなったあとの人が、喜んで借金を背負ってくれるようなものを、今、考えていかななくてはならないかと。だとすると30年間やってきたことを、今一回、見つめなおしてもよろしいのではないかと思うんですよね。その辺はいかがでしょうか。

(事務局)

確かに今のご意見、ごもっともいうところでございます。ただですね、今現在、文化会館の運営そのものを指定管理者制度という形で財団にお願いしています。そちらの運営の中で、今後も引き続き指定管理者ということを実施してやっていきたい、ということになりますと、ただ単に市民文化の創造だけでは成り立たなくなってしまうだろうという所の危惧もございます。

そういった中で、先程も申し上げましたとおり、鑑賞事業等も出来るだけ取り入れた中で、いろいろな運営ができるというような施設を作っていきたい、というふうに考えています。

(岩本委員)

そういうふうにお答えするしかないと思うんですが、指定管理者制度というのは、ご存じない方もいると思うんですが、基本的には公募をしなくてはいけないというのが指定管理制度ですね。文化財団がどこも競争せずに文化会館を運営するために作った団体ですから、今までは、当然そこがやるってことになっていますが、これからは、市や公な事業を競争入札させなさい、ということで指定管理者制度っていうのができたんで、本来、この会館についても公募しなければならぬんです。そうすると、キャパ1000とこういう建物ですよ。こういう目的で作った建物ですよ。どなたか手を挙げませんか？とって公募し

た場合に絶対来ますよ。指定管理者制度の充実っていうのは、公募にもっていくんですね。今の財団じゃそういたら受けきれないなんて、それはまだまだ分からない話で、僕も財団の理事ですから、僕は十分に受け入れろといいますよ。レッスンに参加しろと言いますよ。出来ないことはないですね。しかも、ほとんど創造の事業が市から委託を受けてやっていますから、その部分は赤字覚悟で出来る話だし、それは市の制度の委託金制度を見直せば出来る話だしね。どこにその会館の使命を設定するか、そこだと思うんですよね。これは職員の皆さんに答えろと言っても無理かもしれないけれども、市のトップの茅ヶ崎の市長の茅ヶ崎の文化に対する姿勢みたいなものですね。これが、やはりこの際どっち向いているんだと。興行のほうに向いているのか、茅ヶ崎市民に向いているのか、あるいは将来の文化活動に向いているのか、その辺だと思うんですよね。市長は、この辺について何か言っていますか？

(事務局)

一応、プロポーザル方式で募集する時に、そういった形で客席も今の1400をできるだけ確保するというので、当初の計画の概要が作られておりますので。その辺は、承知されているものと認識しております。

(岩本委員)

財団の理事会で、僕が発言して、一般の市民の声を聞きなさいというのはね、そういうところから声を聞きなさいという発言だったんですよ。ある程度計画が決まってしまうと会館のコンセプトはこれです、席数がこれです、基本的に決まってしまうといじりようがない。後は造作をどうするかの話になりますよね。

それでは、検討協議会を作った意味も非常に薄れてしまうと思うんですがね。その辺どのようにお考えですか？

(事務局)

最終的には、この検討協議会のご意見をいただいた中で、理事者等に説明し、議会の承認を得るという形になりますので、ここでご意見を取りまとめていただくというのが最終目的になります。

(岩本委員)

もう一つ、席についていいですか？あとここでの席は整列していますよね。最近の席は千鳥において前の人の頭が邪魔にならない配慮がしてある訳ですよね？

(A&T 建築研究所)

先ほど説明させていただきましたが、平土間の部分。後ろの方は段床がありますのでクリ

アされているということで、大ホール・小ホール共に平土間の部分のみ千鳥配置にしています。

(杉山会長)

例えばお席の席数に関しては他の方々はどのようなご意見があるかお聞きしたい気もいたしますが、いかがでしょうか。

(大野アドバイザー)

よろしいですか。あくまでもこの問題は、地域の方々のお考えに基づいてやらなくてはならないと思います。ただ私は、県民ホールを運営していて感じるんですけど、うちの場合は利用料金制をとっています。ですから、収益をある程度あげる努力をすることによって、費用の一端を賄っています。そうしますと、興行採算を無視する訳にはいかない。確かにこと県の第一の施設である以上は、文化の振興という大命題がありますから、ある程度採算を無視してもやらなくてはいけないこともあります。でも、日常においてはできるだけ多くの方々に来てもらえるような催し物をやらなくてはならない。そうしますと、文化活動に従事されている方たちは、席の数よりも環境をもっと良くして欲しいと要望があります。ところが、あそこを使っていただく宝塚であるとか、人気のある県民の方たちに見たいと言われたとき、そういったイベントをやる場合には、席が多くないとイベント屋さんには、興行利益が多い会場をおさえにかかります。そうすると、うちがやっぱり席数を減らしますと、もう神奈川よりも魅力のある別の建物に行きます。というようなことになって呼びにくいことがある場合があります。だからうちは真ん中の部分だけ千鳥にしました。見にくいというので、千鳥にしたんですが客席数が減ります。若干なんですけど減るんですね。ところが、その時にイベントさん達がもの凄いブーイングだったんですね。絶対減らして貰ったら困る。確かに首都圏の中で2400、2500弱のホールはあまりない訳ですから、それを減らされると困るというのは、イベントさんの立場にすればそうなんです。でもこれも無視できない。ここのところは、いたしかゆしなんです。それでもお客様のサービスということは忘れちゃいけないので、多少のことは我慢してくださいとお願いして多少座席が減っても千鳥にいたしました。

そういう経緯がありますので、これはまた非常に難しい舵の取り方だと思うんですが、ただそれは、地域の方々がこっちに重点を置くべきだとかご判断なさったんならばそっちを取るべきだし、なんとも私の立場では言えませんが、私のところではそういう経験をいたしました。それはやっぱりホールを運営するにあたり避けて通れない道ですので、ご参考までに申しました。

(本杉アドバイザー)

数字上で減ってないように見えますが、現在花道であるところなどにも席を設けているの

で、今の状態と比較すると減っています。おそらく 40 席以上減っていると思います。65 ですか？舞台の出たところを削ったり、花道を削ったりしてやりくりしている訳ですね。同じ器の中に、今より広い席をいければ物理的に減ってしまうのは当然で、それを何とか提案では興行上も考えて、こういう風にすれば現状維持できる、という数字をあげているので、今と同じ状態で比較すれば減っているということになります。

座席の居住性を良くすることだけにとどまらず、40 年 50 年先の人口構成や市の収入などを見据えてという話はあるかもしれませんが、それをこの協議会の短い時間の中で検討し、結論を出すというのは難しい話のように思います。また逆に、それをここで決められるかということもまたできることなのだろうかという心配もあります。これはある程度前提としてスタートさせていかないとデッドエンドになってしまうのではないかなと思います。

(岩本副会長)

僕が言いたい意見は、時間がないからこれでいってしまおうという話じゃないんです。基本的に、この会館をどういう会館にするかという論議がどこでされたのか。市議会などであったのか。少なくとも財団の理事会では無かったし、一体それがどこで議論されたのかな。されないままにただ耐震工事をしますからってという安易な考え方で、40 億も使おうとしているのか。それだったら、あとになって市民は怒るんじゃないでしょうか。40 億出すのは茅ヶ崎市民ですから。誰のための誰がこの会館をどうして作るのかをきちんと議論をしたうえで着工するべきなんですね。一生懸命考えた末、客席が 100 席増えちゃったのならいいですよ。多いに越したことはないんですから。ただあまり、そういうことにこだわり過ぎたり、その議論をすると時間がないからということであやふやにしてしまうのは、いかななものかなと思っています。

(遠藤委員)

さっきからコンセプトという言葉が飛び交っているんですけど、改修によって建て直した文化会館はこういうコンセプトってあるんですか。

(本杉アドバイザー)

文化会館自身については、すでに条例で定められているのではないのでしょうか？
こういう施設を作るにあたっては、各自治体が設置目的を必ず書きますよね。

(遠藤委員)

それに見合わせて行っているということですか。

(本杉アドバイザー)

それに則ったり進まれていると思います。ただ客席数に関しては、何を持って好ましいと

するかは非常に微妙な話で、これだから良いこれだから駄目というのは、論理的には大変難しい話ですね。

(遠藤委員)

その資料は今わからないですか？

(事務局)

第一回目にお配りした資料の中にプロポーザルに出した概要表、施設改修の概要書とか簡易事項などお配りしていると思いますので、その中である程度確認していただけたらよいかと思います。

(杉山会長)

1回目の資料4と5です。

(事務局)

基本計画の概要が資料4で設計への検討を反映させる概要が資料5です。一回目の協議会にお配りしたものです。

(杉山会長)

こちらの資料4の中の6の(3)ですね。市民の文化、芸術活動の創造、発表、鑑賞の中心の場となる施設作りということで。誰もが鑑賞者であっても、参加者であっても楽しむことができる文化事業を提供でき、市民の文化の活性化を図れる施設づくりをする。次世代の文化、芸術活動の育成を図れる施設づくりをする。こちらが改修の方向性かなと思います。

先程から些細なことなんですが、興行屋さんのために客数は減らしちゃいけないというお考えだと思うんですが、私たち窓口において、本当に市民の方、特に茅ヶ崎市の方は、東京でお仕事されていた方が、茅ヶ崎に環境がいいのでお住みになられたとかですね、比較的、年配の方が多かったです。若い時期に東京で芸術を楽しまれていた方とか、やはり年をお召しになられて、東京に公演を見に行くのが大変だと。「やっぱり地元で歩いて、10分くらいで帰れるところで良いものが見られるのは凄く助かるのよ」と窓口でチケットを売りながらお話をお聞きしました。いろいろな事情があって東京に行けない方々が、茅ヶ崎にはいらっしやるし、そういった方々に地元で心を休まる瞬間を届けることができるためにも、良いもの、皆さんが見たいものを地元で見られるような施設を整えておくことが出来ればなと考えております。

(杉山会長)

客席についてはいかがでしょうか？今は大ホールの話が中心ですが、小ホールの方は特によろしいですか？

(丸山委員)

座席の関係で説明がありました。センターの番号で言うと168番については一応、前の列であるという、大ホールの206番の席については千鳥にしてある。

180番の席については従来のもの。これは、階段状になっているということだと思んですが、やはり子供、老人とかそういう人も当然入る訳ですよ。

そういう中で前の席が段差があるんならばこの席もそういう配慮は考えなかったのかどうかということを知りたいんですけど。

(A&T 建築研究所)

現在、この部分が平土間。こちらが段床になっているという中で、ここが千鳥で良いけれど、ここも千鳥が良いという端的な話ですよ。物理的に千鳥が出来ないかということ出来ないことはないです。

ただし、客席数は減ってきます。もうひとつ、ここのホール、中を歩かれて何となく違和感がある方、いらっしゃるんじゃないかなと思うんですが。実は、ここで段差が微妙に違うんですよ。一般的にはほぼ同じ段差で上がっていきます。

ここのホールは元々、ある程度、前の人の頭をクリアできるように少しづつ、段差を変えていって、なるべく前の人の頭が邪魔にならないように、配慮がされておまして。なおかつ、前方向の段差の高さが一般のホールに比べるとちょっと高い段差になっております。ですので、こちらの段床の席については、一般のホールに比べたらかなり見やすいと判断しております。ですので、そういう配慮がなされた段差なので、特にここまで客席を減らしてまで千鳥にこちらはもっていかなくていいのではと判断いたしました。

(丸山委員)

小ホールはどうですか。

(A&T 建築研究所)

大ホールと一緒にですね。非常に見やすいホールだと感じました。

(大野アドバイザー)

ご参考までに申し上げますと、神奈川は後ろの部分も同じ千鳥にしたかったんですね。ところが、このフロアが階段になっていますし、下にダクトが通っています。そうすると物理的に駄目なんだそうです。それで平土間の方はないからいいんですが、階段を全部取り壊してとなりますと、建築費の問題になってきますのでしようがなく、段差があるから

平土間とは違うので我慢いたしました。こちらがどうなっているか分からないんですが、おそらく似たような問題が出てくるんじゃないかと思っております。

(A&T 建築研究所)

少なくとも、かなりのホールを見させていただいた中で、このホールの段床については、非常に見やすいと、前の頭がひっかからないレイアウトになっているということで。そういうことで段床の方の千鳥については今回採用しないということをご了解ください。

(白井委員)

段床の関係については理解できたんですが、今まで何ですが、通路が非常に暗いんですが、その照明についてのお話はありましたか。

(A&T 建築研究所)

まず、客席の照明については全面的にやり変えます。特に小ホールにムラがあったりするのでやり変えます。それと、舞台が始まりまして暗転した時の通路の照明ですが、これにつきまして、消防法で客席通路誘導灯で明るさが決まっております。

それから、休憩時間等の全体の明るさについては、大・小ホールとも改修する予定でございます。

(白井委員)

ちなみに今までの照度っていうか明るさっていうのはどうだったんですか。

(A&T 建築研究所)

照度は実測をしました。大ホールは、この列は明るい、この列は暗い、というような状況です。それをほぼ全席均一な明るさにするというございます。

(遠藤委員)

大ホールの花道を仮設の花道にして席を増やすってことだったんですけれど。

個人的には、一番端に座って見せていただいたことはないんですけれど、その席って視覚とかどうなるんですか？それともその席は滅多に使わないってこともあるんですか。

(A&T 建築研究所)

当然、端の方というのは下手から三分の一くらいは見えません。

そのへんにつきましては、先ほどから話が出てますが、有料公演等にあつては、主催者の側は分かっているので、この辺の席は値段を安くし、こちら側がS席になってというように、料金に反映されています。

(本杉アドバイザー)

大ホールの話に戻って恐縮ですが、2階の中通路から前の席に関してちょっと気になることがあります。中通路より後ろはこれで良いと思いますが、その前の部分に関しては、今回の提案より現状のままでも良いのではないかという気がしています。バルコニーの最先端部で15席連続していくのは、現状に慣れている人にとってはちょっと可哀相かなという気がします。どうでしょうか。これが一階席のように20列以上もあると、1席ずれると20席以上も減ってしまうことになりますけれど、この部分だけでしたら少しの減で済みます。10席くらい減る程度でしょうか。バルコニーの最前列席では、手摺が低いところをやや横向きで歩くことになります。皆さんが立って通してくれると良いのですが、立ってくれないところやって足を縮こめている前を通ることになりちょっと不安を感じる人もいらっしゃるのではと、そこだけちょっと気になります。

(A&T 建築研究所)

本杉先生からのご意見で、ちょっと怖いんじゃないかというような話があるなかで、どういうふうに落ち着かせるというのはもう少し調整ということではよろしいでしょうか？安全を重視するということで。恐怖感を覚えさせるということを避けるという意味で16席減。ご説明したなかで1386席になるかもしれません。

(大野アドバイザー)

そちらと私と立っていると状況が違うと思うんですけど、前の分割の方が有難いなと思うのは私どもはVIPが見えたときに、客席の真ん中が通路になっているとがらりとしている。前のように真ん中に席があった方がVIPがお座りになるには望ましいかと思えますので、本杉先生がおっしゃったようにするのが望ましいかと。

(本杉アドバイザー)

2階だからそんなにVIPは来ないと思いますが、どうでしょう。

(大野アドバイザー)

いや、むしろ2階バルコニーが多いんです。

(本杉アドバイザー)

この間、新国立劇場のオペラ劇場に皇太子殿下が見えた時は2階でした。あその場合は当初からそういう設計になっている。

(大野アドバイザー)

だいたい2階です。今までの私の劇場経験で平土間っていうのは一度もないです。全部、2階正面です。

(A&T 建築研究所)

わかりました。通路は上下になって問題ないと思うんですけど、二階席の通路が互い違いになってしまうので、検討いたします。

この段とこちらの段との通路の位置が違ってくるといえることですか。

(本杉アドバイザー)

そうですね。それは全く構わないと思います。

(A&T 建築研究所)

こちら側につきましては、できるだけそういうことも考慮して、12列以上あまり増やさない方向で考えさせていただきます。その場合、最悪、数字上の問題ですけど1400切るということでご理解ください。

(塚原委員)

ちょっとよろしいですか。私も実際、年寄りで2人も3人も知っております。もう80近くになったら、一番好きなどころなんですけど、2階の1列目は遠慮するという方もおりますし、それから中にはチケットをとる時に、2階の1列目に真ん中の方歩いてよと言われますと、本人以外は足元が怖いのでという方が結構いらっしゃいます。手摺が少し高ければいいかといいますと、現状でも、座高の低い方、高い方、丁度ステージへの目線のところにバーがかかるところがあるんですよ。ですから、そういう方は一番前には座らないで、私どもの会員の方には固定席を差し上げてますけれども、2列目にしています。

(丸山委員)

館長さんに伺いたんですけど、県民ホールの横の席数って最大何席ですか？

(大野アドバイザー)

横の席数？大体12です。

(丸山委員)

さっきから気になっているんですが、15の横並びってちょっと見るほうにはきついんじゃないかなと思うんですが。

(大野アドバイザー)

長いと言えば新国立劇場は20を超えているんですよ。

(本杉アドバイザー)

今まで12席が多かったのは法律でそれ以上出来なかったからです。新国立劇場の計画に当たって、客席の一体感があつたほうが良いというので、それで避難安全を考えてやった結果、20列までは良いということになりました。ただし、客席が折り畳まれた時の有効前後寸法が避難上重要で、そのことを考えておく必要があります。

(丸山委員)

僕、実はさっきからお話伺っていて、この茅ヶ崎の文化会館っていうのはキーコンセプトはいいと思います。今のあり方は、凄く使いやすいと思います。

僕は、東京の人間なんですけど、初めて来た時にこんな便利な会館はないなと思ったんですよ。国道1号から一回右折するだけで来られますし、駅からも7分ですか。ホテルも新しくなりますし。物凄く茅ヶ崎って商売下手だなんて思うんですが。これで客席数を積極的に減らす必要もございませんし、改修工事をして、中を綺麗にして凄く魅力的なホールになると思う。

それから市民文化会館の役割って何でしょうと逆なことをいうんですが、営業目的で作ります。

本当の理想は、文化会館に今日行ってみたら、こんな出し物やっているって。じゃあ見ていこうか。それが、コミュニティーホールの本当の理由だと思うんですよ。もちろん営業目的もある。そういう意味では凄くいいホールだと思っています。

やっぱり今までいらっしゃった方が、客席に入ってきたときに幅は広がるけど前後がある。多分、階段を作りなおすのは予算的に難しい。そうすると15席っていうのは不親切っていう気もするんですね。

今の文化会館に一番不満なのは、1階席の壁際に通路がない。凄く移動しづらいと思います。ちょっと通路をさっきの改修案の後ろから来て、真ん中に入るのは嫌だというふうに思いました。お客さんが座りやすいようにするために客席が減るんだったら仕方がないのかと思います。

(杉山会長)

これは、もういろいろな意見があるので、今日はここでまとめることはできないと思うんですが、安全というのが大事なことだと思いましたが、二回目のことも含めてまたよろしくお願いします。

(A&T 建築研究所)

今日、これらのご意見をもとに、基本設計に反映させていただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

(杉山会長)

では客席につきましては以上ということにいたします。続きまして、ご説明をよろしく申し上げます。

議題の2、市民の文化・芸術活動の創造・発表・鑑賞の中心の場となる施設改修の方向性について事務局よりご説明申し上げます。

(A&T 建築研究所)

「市民の文化・芸術活動の創造・発表・鑑賞の中心となる場」という議題ではありますが、前回までの協議会では、ホールの内部について説明させていただきました。今回の議題につきましては、ホールを文化創造、芸術の場としてどのように利用するかということであり、ます。

(A&T 建築研究所 説明 (プロジェクター・模型使用))

現状を図面で説明をさせていただきますと、左側が市役所の本庁舎また分庁舎でございます。上側が体育館、下側が道路を挟んで中央公園というような中で、現在の文化会館は、下部が駐車場となっております、階段で人工地盤に上がっていくようになっております。また、ご覧のように2階がメインの入口となっている建物でございます。

今回耐震改修するにあたりまして、ホールの内部だけではなく、重要なテーマであるバリアフリー、ユニバーサルデザインのように、誰でも簡単に利用できる文化会館ということの中で、現在いろいろ検討していますが、階段が多いので、アップダウンだけでエスカレーター4台が必要。そして、車いすの方を考えると、デッキレベルまでいくためのエレベーターが必要になってくる。バリアフリーを完備し、なおかつタイルをやり直すとなると、先程も申し上げましたが、大幅にコストがかかるというような事が言えます。

そんな中で、改修するにあたって2案を、ご提案させていただきます。

まず、A案でございますが、現在、今ご説明させていただきましたデッキ部分をとってしまうというような案でございます。デッキ部分をとりまして、文化会館の入口は1階の地上レベルから段差なしで入れる改修計画であります。ただ、ホールのメインロビーは2階ですので、そこに上がるのについてはエスカレーターを設ける。また、車いすの方に対しては、エレベーターを増設しようというようなものがA案でございます。

B案の方は、デッキの一部を残す考えの案でございます。残したところにつきましては、展示室にする考えであります。

それぞれの案につきましては、個別にご説明しますが、こうすることによって、現在の展

示室が、外に出てくるので、空いた天井が高いところに第三のホールとして利用できるかと考えております。なぜ 2 案作ったかといいますと、いずれの案もデッキ部分がある程度壊すことと第三のホールを考えたときに、コストの比較として A 案の方が安いということでもあります。

ご説明させていただいた中で、心苦しいですが、1つはコストの問題。まだ、トータルコストで、各案がどのくらいかかるかという検証が済んでおりません。それともう1つ、耐震補強をする中で、新たに床を造ることは、法的な問題で、最終的に確認が取れていないところがございます。多少変わるおそれがあります。ただ、展示室を外へ出してなるべく通行になる方々の目にとまるような少し華やかなものを前に出したいと思っています。メインエントランスにつきましても、今は 2 階からアプローチしているのを 1 階にして、バリアーをなくした建物にしたいと考えています。いずれにせよ、1階にエントランスを設置して開かれたものにしようというのが一番の趣旨です。2案ありますが、出来ることなら B 案で進めて行きたいと考えてますが、トータルのコストの中で、調整や法的な問題などがあります。この辺につきましては今月から 11 月末ぐらいまでに検討調整を行い方針を決めてまいります。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。

ご説明いただきましたが、ご意見ご質疑等ございましたらどうぞ。

(岩本副会長)

よろしいですか？ B 案で行きますと大ホールの下手の袖はかなり狭くなるということですか？

(A&T 建築研究所)

いや全く影響はございません。

ホールに関しては A 案 B 案ともに特に影響はございません。大ホールの下手に影響が出るとすれば、搬入口の説明の際お話ししようと考えております。

(岩本副会長)

駐車場が減るということですね？

(A&T 建築研究所)

はい。今までプラザの下にあったものがなくなるということです。これにつきましては茅ヶ崎市さんを含めて検討させていただきます。それから将来のことを考えますと、市役所が奥へ移るといった計画もあるみたいですし、前面がコミュニティーバスのロータリー等に

なるという予定も聞いております。そんな中で、出来れば、今回の計画のように開けて、エントランスの前が広場になって、同じレベルになっているというのが非常にいいのではないかとというのが私どもの考えであります。

(杉山会長)

はい。展示室、ホール、練習室というのは、普段、みなさんが良くお使いになっているかと思いますが、どうでしょうか？

(白井委員)

ちょっとよろしいですか？実際には当初から耐震強度の補強というのが目的かと思うのですが、それにかかわって実際これだけ手を加えたり、壊したりして耐震という面ではいかがなんでしょうか？

(A&T 建築研究所)

現在、人工地盤がこのようにのっております。建物とは全く形態が違うの是一目見てお分かりかと思いますが、ここの部分につきましては、建屋でいうところの平屋に当たります。建物が上に乗っていない部分ですので切り離しても、こちらには影響がないということです。

(白井委員)

今駐車場の屋根のあるところの部分はどうなるんでしょうか？

(A&T 建築研究所)

ここの部分がそうです。この部分が無くなるということです。

(本杉アドバイザー)

全くではないですね。一部分を残して利用しようとしているのが B 案で、天井が高い部分を展示室として使っています。A 案は全て取るという考えです。

(松永委員)

展示室をよく使っているんですけども、今まで利用していて改良しようがないというか、いくらお金をかけても使いづらい部屋なんですね。天井の高さが違いすぎて。ですから、是非 B 案にしてほしいと思います。理想なものができて利用者は喜ぶと思います。これくらい変わると、やったなということがありますので、是非よろしく願いいたします。駐車場の方は市役所の奥の方も広いわけですから、そこを上手くお互いに話し合ったらいいと思います。

(片岡委員)

例えば農協なんかは演芸などをやって文化会館を使っているんですが、並ぶんですね。今現在は屋根があって相当並んでデッキの方に行くんですけども、屋根をとった場合この B 案になった場合、まだ中に入れずに外に並ぶという場合には、どのようになるんでしょうか？参考までにお聞かせください。

(A&T 建築研究所)

現在の開館時間は 9 時でしょうか？

(杉山会長)

はい。9 時の 10 分前の 50 分とかですが。

(A&T 建築研究所)

9 時前といいますと当然エントランスが開いていないわけですので。

今おっしゃったのは既存では、屋根のある駐車場の部分に並ぶということですか？

(片岡委員)

そうではなくて、今のデッキ部分でしょうか、そこからペデストリアンデッキの通路まで並ぶんです。そこには今屋根はないですよ？今度の案ではなくなってしまいますよね？

(A&T 建築研究所)

いや、今もないんですが。

(片岡委員)

外はプラザ部分には今もないですね。

屋根はないんですが、駅の方から外に並ぶんですよ。今は多少スペースがあるんですが、今度入口から入るときにどうするのか？

(本杉アドバイザー)

それは一緒ですね。

(模型で説明)

現在の 2F 部分のプラザで待っていたものが、新しい案ではグラウンドレベルである広場部分になるということです。

(大野アドバイザー)

メインエントランスが、今回の案では屋根がありますから、階段沿いに並んでいただいて整理すればかなりの人数を収容できます。その分、むしろ雨に濡れないで、今までより多くの人が庇の下に入れるのではないかと思います。

(片岡委員)

どうもありがとうございます。

(白井委員)

歩道橋は別にいいのでしょうか？

(杉山会長)

ふれあい橋ですね。

(模型で説明)

(A&T 建築研究所)

歩道橋は現在のまま B 案の 2 階のレベルに入れるようにできないかなと考えております。この部分は、市の建築課さんと打ち合わせをしているんですが、工事の範囲が建物側なのか道路側なのかをこれから調整していきたいと思います。

(岩本副会長)

いいですか。A 案か B 案かといわれますと B 案に近いんですが A 案のですね、大ホールの前ワイエの前に展示室があるというのも捨てがたいかなと。

(A&T 建築研究所)

先ほど申しましたように誠に恐縮なんですが、吹抜け部分がありまして床がないんですね。その部分に、床を張って展示室にしようという案なんですが、もしかすると法的に床が張れないということがありえます。画として描いていて申し訳ないんですが、そういうことも頭に入れておいていただきたいです。

B 案の 1 階にあると言うのも、展示室の通路ですとかエントランスロビーを外から見えるようにすると透明感のある開かれた感じの建物ができるのではと考えております。

(杉山会長)

そろそろ時間も過ぎているようなので、議題の 2 についてはこのくらいでよろしいでしょうか？また何かございましたらお願いします。

(A&T 建築研究所)

できるだけ B 案を目指して行きたいという事で、最終的には来月茅ヶ崎市さん含めて検討させていただいて最終的に決定したいと思います。

現在検討している内容としましては現在このように進めているということです。

(A&T 建築研究所)

(図面をもとに、楽屋レイアウト改修案を説明)

(杉山会長)

では、今の説明でご意見ご質疑受けたいと思います。

何かございましたらどうぞお願いします。

(山内委員)

搬入用の EV なのですが、現状のサイズと大体同じくらいですか？

(A&T 建築研究所)

いろいろ検討いたしましたけど、現行と同じです。横ふりにして入口を変えようと思ったんですが、いろいろ問題がありまして現在の方針では、現状のままです。ただ、使い勝手というのは現状のままで、マシンを入れ替えたりというのはあります。

(山内委員)

それと搬入の屋根のところには床を作るというお話がありましたが、間口の天井高が高いと。高さからレベル差が出ますが。

(A&T 建築研究所)

はい。調整しております。

(山内委員)

あとですね、よく大ホールの楽屋を使われる方で、洗濯機を持ち込みで使われる方が非常に多いんですが。

(A&T 建築研究所)

現在、湯沸しですとかシャワーブースですとかを完備するよう検討しておりまして、少し大きめにスペースをとっております。細かいレイアウトはまだですが、そういう湯沸かしですとかシャワーを考えてかなり広めに考えておりますので。

(山内委員)

わかりました。ありがとうございます。

(杉山会長)

はい。その他何かございませんでしょうか？

(岩本副会長)

かなり使い勝手がよくなると期待をしたいところなんですが、小ホールのトイレについて改良はないですかね？

(A&T 建築研究所)

客用のトイレですか？

(岩本副会長)

いや、楽屋からの。お客さんのところも使えなくはないですが、楽屋専用のトイレというのはないんですよね？

(A&T 建築研究所)

ちょっと離れたところにありますが。

(岩本副会長)

そうすると、一番遠い和室の楽屋を利用されている方は不便ですよ？

(A&T 建築研究所)

先程申し上げましたが、この案ですと、現在吹抜けになっている部分に床を張る案です。これは法的にできない可能性があるという中で、搬入口の上部のスペースの利用ということも考えております。

(本杉アドバイザー)

今の楽屋の数と、備品庫を優先させて便所の位置はそのままという考え方ですかね？

(A&T 建築研究所)

基本的にはそうですが、トイレとして利用できる部分があれば設けたいです。もう少し検討させてください。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。

(A&T 建築研究所)

不確定要素がある中での説明で大変申し訳ありません。いずれにせよ、方向といたしましては小ホール楽屋につきましては楽屋数を増やす。縦の動線を設けて体の不自由な方でも来られるようにする。それと今お話のあったトイレを近くする。ということを含めて小ホール楽屋を検討させていただきます。

大ホール等につきましてはこちらで申し上げましたことを検討していきたいと思います。また、細かいことが資料に載っておりますが、これからご意見をいただきながら検討してまいります。楽屋等につきましては色の着いているゾーンの中で変更していくとご理解ください。細かい間仕切りや部屋の向き等につきましては、これから何度か変わっていくと思いますのでよろしくお願いたします。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。

議題 3 はこれをもちまして終了したいと思いますが、また何かお気づきの点ございましたらご意見をいただければと。

では、議題 4 その他に移らせていただいてよろしいでしょうか？では、その他でございますが、皆様方または事務局から何かございましたらどうぞよろしくお願いたします。

(事務局)

事務局から 2 点お話がございます。

まず 1 点目が、次回の協議会の日程の確認をさせていただきたいと思います。

今回は、10 月 22 日木曜日、時間が 14 時から 16 時、場所が、市役所本庁舎 7 階第一会議室の (B) です。続きまして、もう 1 点ですが、前回の協議会の会議録を配布させていただいております。お手数ですが 10 月 15 日木曜日までにご確認のうえ、何かありましたら事務局のほうに FAX、メール、電話等でご連絡いただけますでしょうか。修正等ございましたら、事務局で修正して、ホームページのほうにアップをさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。事務局からは、以上です。

(A&T 建築研究所)

前回ご要望があった中で、ディスカッションさせていただいた中で、質問の中で、意図が読み取れないものが 3,4 項目あって再度確認していただくということについては、次回ということでもよろしいでしょうか？

(杉山会長)

文団協さんから出ていた要望の中で、A&T さんから確認の要望があったと思うんですけども、確認の方はいかがでしょうか？

(遠藤委員)

今日は用意がないので、資料はお送りします。

(杉山会長)

では、確認は資料をお送りいただくということでもよろしいでしょうか？

それでは次回お答えしますのでよろしく申し上げます。

では、時間も過ぎてしまいましたが、本日もアドバイザーの先生方ありがとうございました。貴重なお時間長い間本当にありがとうございました。お時間も過ぎてしまって申し訳ありませんでした。また、次回もよろしく願いいたします。

ありがとうございました。